

多摩のくらし～歳時記

～師走(冬至と大みそか)～

冬至は、太陽暦の12月22日ごろで、北半球では太陽の南中高度が最も低く、昼間が最も短い日です。本格的な寒さへの準備の日であるとともに、その日から昼の目一つずつ昼が長くなっていく、一陽来復のときでもあります。冬至の日は、栄養をつければ中風や風邪にかからないという考えから、保存食のカボチャ



を食べる習慣があります。また、柚子湯(ユズを入れたお風呂)は、手拭いか晒しを袋に縫った中に、二つ切り、四つ切りにしたユズを入れて口を縛り、それを風呂に入れますが、そうすると体がより温まり、「柚子湯に入れば無病息災」ともいわれています。柚子湯の効用やいわれはさまざまあって、ひびやあかぎれに効くとか、「融通(ゆうずう)がきく」との語呂合わせともいわれています。

大みそか。もうあとわずか過ぎ去ろうとする一年を、さらに幸多い新年へ結びつけるための「年送り」の行事は、多くの地方で12月13日の正月事始め(年用意し春支度)から始められます。その時期は煤(すす)払い、畳替え、門松おろし、餅つきなどで大変忙しいものです。同時に、まちには歳の市が立ち、歳暮売り出しなどで賑わいます。身近なところでは、一年の苦勞を忘れる忘年会の時節でもあります。古くは大みそかの夕暮れが年の終わりであって、家族がそろって年取りの夜食をとり、新しい歳神を寝ずに迎えるのが習わしでありました。今も除夜の鐘を聞くまで、子どもたちを無理に起こしておく習慣があるのはそのためです。恒例の年越しそばは、江戸時代に金銀細工職人が削り屑を、そば団子で拾い集めたことから、「そばは金を集める」の縁起になったといわれています。こうして百八つの除夜の鐘が鳴り終えたとき、新年を迎えることとなります。(川口キン)

AED貸し出し事業を開始

多摩防火協会では、区内の団体などが行うイベント、行事などにおいて、救命活動に備えるため、AEDの無料貸し出しを行っています。



【申し込み】

多摩防火協会事務局(多摩消防署内) 電話 933-0119

編集後記

イメージを一新した広報誌の1年。区民の皆さまにも親しみを感じていただける内容になってきたようです。これからも取材を通じて、隠れたまちの歴史や文化、新たな出来事をお届けしたいと思いますので、皆さまのご支援をお願い申し上げます。(大久保)

■まち協のホームページ <http://tamaku-machikyoo.com/>

たま今昔 区制が敷かれてから40年を経た多摩区の昔の姿を探ります

その**3** 八幡踏切とニヶ領用水

昔

昭和40年代中頃
提供: 高橋宣夫氏

今

現在は遊歩道に
桜並木が続いている

JR南武線宿河原駅から久地駅に向かって歩くと緑化センターがありますが、その手前に八幡踏切があります。写真を見比べてみると、踏切は家に隠れて見えませんが、電車と家の感じもよく似ていて、昔の面影を残す風景がそこに広がっていることが分かります。また、ここは桜吹雪を体験できる桜の名所でもあります。

たまの顔 専修大学の皆さん

専修大学商学部前川ゼミの3年生と、地元の和菓子店9店舗との連携により、多摩区の新名産品「宙(そら)からの贈り物」が出来ました。カボチャのあんが柔らかい食感の求肥にくるまされた和菓子です。学生自ら、市内の統計情報やアンケートを基にして行った市場調査や全国の和菓子コンクール受賞作品などの商品調査を綿密に行いました。また、学生の提案をプロの菓子店が採点し、企画を決定するといったコンペも行いました。味や形だけでなくパッケージデザインを含め、目新しさと地域性を出すのに苦勞したそうです。企画から半年をかけて商品化にこぎ着けました。ただ、苦勞した分、店頭に並ぶ商品を見て感激したとのことでした。皆さんも機会があれば是非お買い求めください。

宙(そら)からの贈り物

宙(そら)からの贈り物

企画に参加した専修大学の皆さん



多摩区まちづくり協議会へのご意見、ご質問、プロジェクトへの参加申し込みはこちらへお願いします。

【事務局】〒214-8570

多摩区役所地域振興課まちづくり推進係

電話 935-3148 FAX 935-3391

メール 71tisin@city.kawasaki.jp



多摩区まちづくり協議会は、区民の自主的なまちづくり活動組織です。区民が取り組む地域活動を、年4回発行でお知らせしています。

私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS 2012年 (平成24年)12月

38号



多摩の風景

川崎市立日本民家園 (藤田道夫氏提供)

日本文化・生活の知恵を探そう

新宿から30分の地、緑豊かな自然環境を有する「生田緑地」内に、日本有数の古民家博物館「日本民家園」があります。1967(昭和42)年に開園した同園は、2011年度の来園者数が10万人を超える人気スポットで、外国人観光客も大勢訪れます。32,380㎡の敷地内には、東日本の代表的な古民家のほかに、水車小屋、船頭小屋、高倉、農村歌舞伎舞台など25棟の建物が集められ、それらの建物全てが国や県などの指定を受けています。「急速に失われつつある古民家を復原保存し、後世に伝えるための野外博物館」という設置目的を果たすため、有資格者による地道な維持管理が日々行われるとともに、市の直営である利点を最大限生かした長期的な修繕計画により、非常に良好な状態で保存されています。また、伝統的な本藍染め体験ができる伝統工芸館も併設されています。

同園は多くのボランティアの方々に支えられていることも特色で、「民具製作技術保存会」と「炉端の会」の2つの団体が、家屋や先人の生活の知恵や技術の維持、保存のために活躍しています。また、年明け最初の開園日には、正月遊びや餅つき、獅子舞などが催され、四季ごとに昔日の文化、風習、生活などを味わうことができます。



+ 活動 炉端の会



毎日4、5棟の民家のいろり火をたいています。来園者に床上に上がっていただき、民家の解説や、いろりばたでくつろぎの場の提供をしています。他に園内ガイド、民家園催事への協力、まき調達作業などさまざまな活動があります。年1回、12月に会員を募集しています。現在、約250人が所属。

電話 044-922-2181 (川崎市立日本民家園)

多摩区まちづくり協議会 まちづくり TOPICS

多摩区まちづくり協議会が内外で行っている
さまざまな活動の紹介や、身近なまちの情報
などを、トピックス仕立てでお届けします！

【まち協ホームページ】
<http://tamaku-machikyo.com/>



多摩エコスタイル 記事 石郷岡



「エコスタ」のロゴが決まりました。多摩区の地形に名産の梨を配した図柄です。ぜひかわいくなってください。新たにブログも展開していきます。自分にとってのエコって何？

また、10月20日に生田緑地で開催された区民祭に参加しました。今後取り組む「1日1エコ運動」の展開に向け、来場者に「今取り組んでいるエコ」「これから取り組むエコ」を教えてください、お礼にゴーヤの種を配布しました。両方とも多かった意見が「節電」でした。ソーラークッカーを展示し、自然エネルギーの利用の啓発活動も行いました。

「まちカツ！」今年度もやります！

毎年恒例のまちづくり活動発表会「まちカツ！」を今年度も開催します。区内のさまざまな団体のまちづくり活動を知り、交流できるこの機会、ぜひご参加ください！

- 開催日：2月9日（土）13時～16時半（予定）
- 場所：多摩区役所11階
- 内容：講演会、まちづくり協議会の活動発表、ポスターセッション



昨年度のまちカツ!の様子

多摩区の活動団体紹介!

取材 本多

かえるプロジェクト

当プロジェクトでは、「エコシティ川崎」を目指して、廃食用油から作ったせっけんの普及啓発や、同じく廃食用油から作ったバイオディーゼル燃料で走るエコバスツアーも実施しています。エコバスツアーの実施などに取り組んでいます。多摩区代表の戸高仁子さんには、9月の多摩★まちCafeで活動を紹介いただき、「積極的な意見交換の場となり、元気をもらうことができた」との感想をいただきました。



Project 多摩の居場所ふらっと 記事 久野

10月、菅高校文化祭のボランティアメッセに活動団体として参加しました。ブースに活動紹介を展示し、体験コーナーでは誰もが知っているドラえもんを折り紙で作りました。中学生や高校生、大人も訪れ、折ったドラえもんに思い思いの顔を描いていました。校長先生が生徒から鶴の折り方を教えてもらったりと、普段見られない光景もありました。12月は、わくわくプラザで口がパクパク動くサンタ作り、菅こ文で乳幼児親子と一緒に「お楽しみ会」など、クリスマスにちなんだ歌や遊びを楽しみます。



和気あいあいとしたブース

安心して歳をかさねるために 記事 本多

11月29日に、多摩★まち大学の一環で、車座勉強会を開催しました。男女共にとっても高い平均寿命を維持している日本人の、病気にならない体づくりや、健康を維持する体づくりについて、長尾で開業されている国保久光先生に講演をお願いしました。日頃の少食とウォーキングにより、長寿命遺伝子、ミトコンドリア、代謝酵素、抗酸化物質などをスムーズに連携させることが秘訣だそうです。



車座で真剣に講演を聴く

10月20日 生田緑地で 多摩区民祭開催 取材 山下



太陽熱でソーラークッキング

今年は好天に恵まれ、多くの区民が参加して秋の一日を楽しみました。専修大学のプラスバンド演奏に始まり、ステージではにぎやかに歌や踊りなどが披露されました。出店は食べ物だけでなく趣向をこらした展示や工作などもあり、芝生広場では竹とんぼも飛びました。私はエコスタでソーラークッキングをして、多くの皆さんにエコの話ができてよかったです。



専修大学によるプラスバンド演奏

平成24年度視察研修 - 柏の葉の先進的なまちづくりの取り組みを見て - 記事 大津

10月31日、総勢27人で、公・民・学連携による「次世代環境都市としてのまちづくり」を進めている、千葉県柏市の柏の葉キャンパスシティを視察しました。まちづくりの活動拠点は、UDCK（柏の葉アーバンデザインセンター）です。柏の葉には、住民が集まり、学び、交流するクラブやプロジェクトが30以上あり、自主運営で活動しています。また、「農あるまちづくり」



UDCKで柏の葉の取り組みについて学ぶ フューチャービレッジ

の活動拠点「環境コンビニステーション」も視察し、野菜づくりなどを通じた体験交流の仕掛けなどについて、お話を伺いました。新しい街にいられた人たち同士のつながりづくりや、古くからの農家と協調し、発展していく柏の葉の試みは、これからの多摩区でも参考になるものでした。

今後も有意義な視察研修を企画していきますので、皆さまの参加をお待ちしています。



オークビレッジ 環境コンビニステーション・体験農園を視察

春を感じる「のらぼう菜」 記事 大久保

春先に、近所の直売所などで時々目にするのが「のらぼう菜」です。アブラナ科でナノハナに似ています。さっとゆで、おひたしやごまあえ、マヨネーズをつけて食べてもおいしい、春を感じる野菜です。鎌倉時代から栽培されているのですが、都市化が進んだせいや、若い人々には意外に知られていません。郷土の味を一度ご賞味ください。



菅地区の「のらぼう菜」

緑化センターまつり 記事 古川

宿河原駅近くの二ヶ領用水沿いにある川崎市緑化センターで、11月10日に開催されたこの「まつり」は、今年で3回目。地域の方々との交流と、センターの活動を広めることを目的に、川崎市公園緑地協会と地元の活動団体とが連携して実施しました。青空園芸教室、朝採り野菜市、模擬店、手作り市、フリマなどや、エコバス試乗会もありました。芝生広場のオープニングは稲田中学校のチアダンス、続いてライブなどのパフォーマンスが繰り広げられ、多くの家族連れでにぎわいました。



クイズ形式で園内をまわるグリーンアドベンチャー